

## 日本毒性学会会員動向調査

(一社) 日本毒性学会理事 上野光一

### 概要

過去 10 年間（5 年毎集計）の日本毒性学会会員動向調査により以下のことがわかった。

1. 会員数は増加傾向にある。
2. 女性会員の増加が顕著である。
3. 20 代および 30 代の会員増が顕著である。
4. 60 代以降の会員数は 40 代、50 代会員数に比べ著しく少ない。
5. 民間企業所属会員が 7 割を占める。
6. 大学関係・公的研究機関所属会員数は増加しており、一定の会員割合を保っている。
7. 学生会員の増加が顕著である。
8. 今後、民間企業臨床開発研究者や医師・薬剤師等 PMS 関係者の会員増を期待したい。

### はじめに

日本毒性学会は 1974 年設立以来延べ 7200 余名の入会者があり、2015 年 5 月末日現在 2716 名の会員数（会費未納者含む）である。本調査は、(一社) 日本毒性学会総務委員会の依頼に基づき 2005 年 12 月末日現在、2010 年 12 月末日現在および 2015 年 5 月末日現在の過去 10 年間の 5 年毎の男女別会員数、年代別会員数および所属分類別会員数の動向を、日本毒性学会会員データベースから調査解析したものである。

### 方法

資料：日本毒性学会 2015 年 5 月末日在籍会員名簿データベースに基づく

除外会員：賛助会員、寄贈会員および購読会員

分類項目：男女別分類

年代別分類

所属別分類：A 大学等アカデミア会員

R 行政機関・財団研究機関等公的研究機関会員

B1 民間企業非臨床研究関係会員

B2 民間企業臨床開発研究関係会員

E 医師・薬剤師等 PMS (Post Marketing Surveillance) 関係会員

S 学生・大学院生等学生会員

尚、学会会員データベースに基づく会員動向調査解析は、日本毒性学会と守秘義務契約を交わし行われた。

## 結果

### 1) 男女別会員動向

表 1 に示したように 2015 年 5 月末日現在の男女別会員数は、男性 2094 名（77.1%）、女性 622 名（22.9%）であり、女性会員の割合は 2005 年末の 16.8%から漸増している。

本会は、1974 年に毒作用研究会として 201 名の会員で発足し、設立以来の入会者数は延べ 7200 余名である。2005 年 12 月末日の会員数は 1984 名、2010 年 12 月末は 2556 名でこの 5 年間に 572 名の会員増加があった。現会員数は 2716 名で直近 5 年の会員増加数は 160 名である。この間の男性会員は 67 名増であるが、女性会員は 93 名の増加であった。

男女別会員数の実人数と男女別割合（%）の 5 年毎の推移を図 1 および図 2 に示した。

表 1 男女別会員数の推移

	2005 年 12 月 末会員数(人)	%	2010 年 12 月 末会員数(人)	%	2015 年 5 月末 会員数(人)	%
男性会員	1650	83.2	2027	79.3	2094	77.1
女性会員	334	16.8	529	20.7	622	22.9
合計会員数	1984		2556		2716	

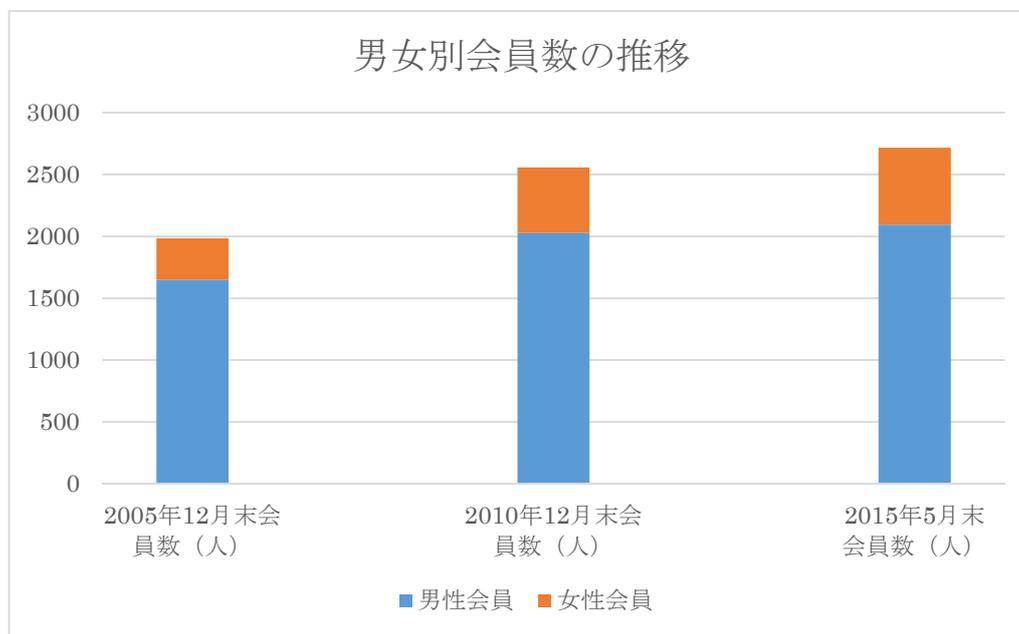


図 1 男女別会員数の推移（実人数）

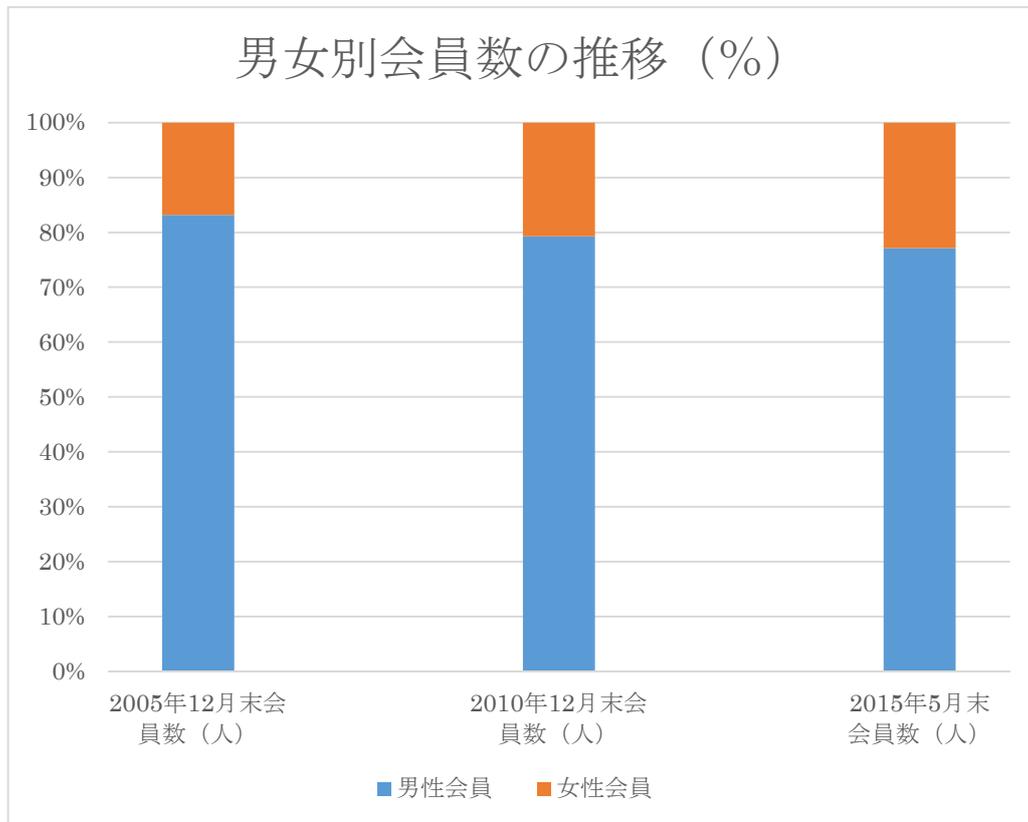


図2 男女別会員割合の推移 (%)

## 2) 年代別会員動向

2005年度からの5年毎の年代別会員動向を表2、図3および図4に示した。ここに示したように本会は、30代から50代の会員が7割以上を占めている。年代別の会員動向を図3および図4で見ると、40代会員のみが漸減傾向にあるが、その他の年代では増加あるいは構成割合の維持がみられる。60代になると50代会員数と比べると実数では激減する。

表2 年代別会員数の推移

	2005年12月末		2010年12月末		2015年5月末	
	会員数(人)	%	会員数(人)	%	会員数(人)	%
20代会員	190	9.6	275	10.8	310	11.4
30代会員	502	25.3	672	26.3	756	27.8
40代会員	654	33	749	29.3	674	24.8
50代会員	406	20.4	543	21.2	629	23.2
60代会員	159	8	228	8.9	246	9.1
70代以上会員	49	2.5	73	2.9	91	3.3
年令不明会員	24	1.2	16	0.6	10	0.4

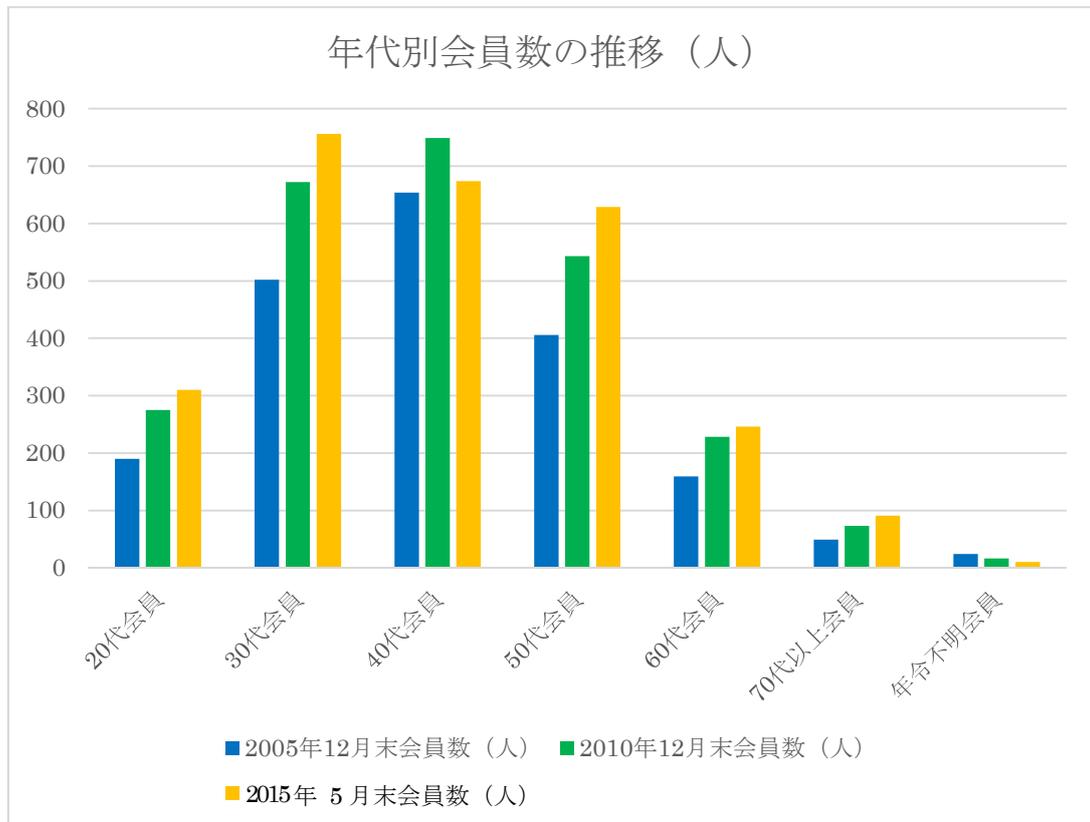


図3 年代別会員数の推移（実人数）

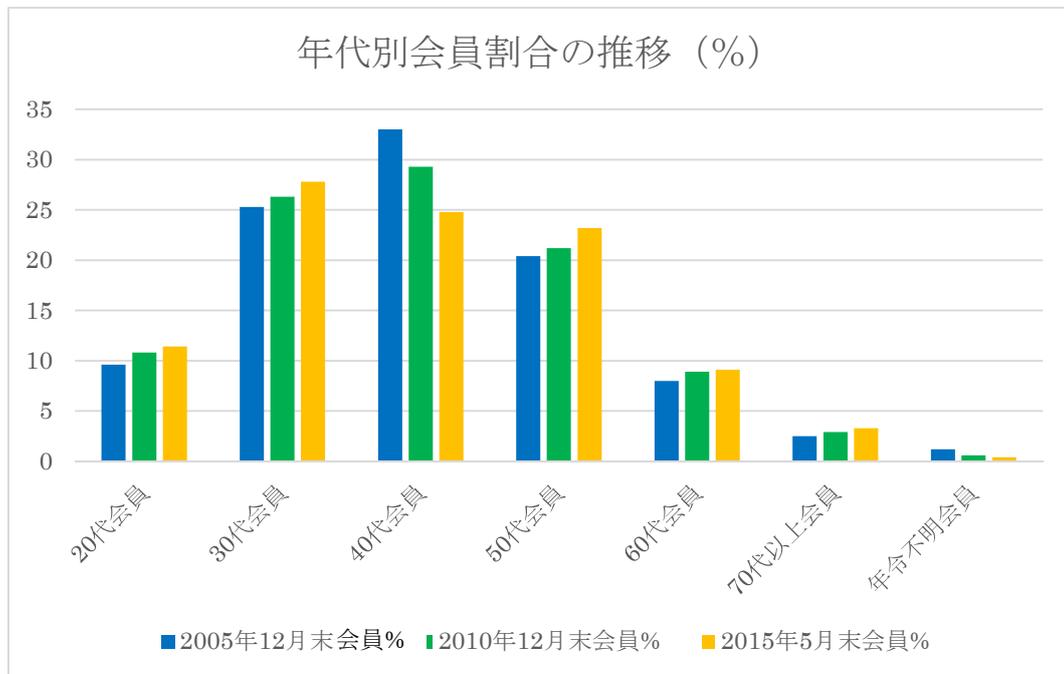


図4 年代別会員割合の推移（%）

### 3) 所属別会員動向

2005年度、2010年度及び現会員の所属別分類を行った。分類は、大学関係、公的研究機関及び行政関係、企業関係（非臨床研究者および臨床開発研究者）、医師・薬剤師等 PMS 関係者、及び学生の6分類とした。公的研究機関は、国・地方自治体並びに財団法人の研究機関とした。民間の受託研究機関研究者は企業関係非臨床研究者に分類した。

結果を表3及び図5～9に示した。いずれの時期においても所属会員の割合が最も多いのは民間企業会員であり7割を占めている。なかでも非臨床研究に従事する会員の割合が3分の2を占めるのも本会の特徴である。しかしながら、2010年から2015年にかけての民間企業所属会員数の増加は頭打ちであり、この間の会員数増加は学生会員の増加に負うところが大きい。アカデミア所属会員と公的研究機関所属会員は、期間を通じて一定の割合を保持しており、両者合計で25%前後の会員割合であった。

現個人会員から海外会員と学生会員を除いた会員数は約2500名であり、このうち企業非臨床関係者、大学関係者、行政関係者、企業臨床関係者、PMS関係者の比率は、それぞれ64.8%、16.5%、12.3%、3.9%、2.5%、であった。

表3 所属別会員数の推移

	2005年12月末		2010年12月末		2015年5月末	
	会員数(人)	%	会員数(人)	%	会員数(人)	%
アカデミア会員	323	16.3	376	14.7	427	15.8
公的機関会員	169	8.5	241	9.4	280	10.3
民間企業非臨床 研究職会員	1354	68.3	1720	67.3	1723	63.5
民間企業臨床開 発職会員	93	4.7	110	4.3	88	3.2
医師・薬剤師等 PMS 会員	28	1.4	28	1.1	25	0.9
学生会員	15	0.8	81	3.2	170	6.3

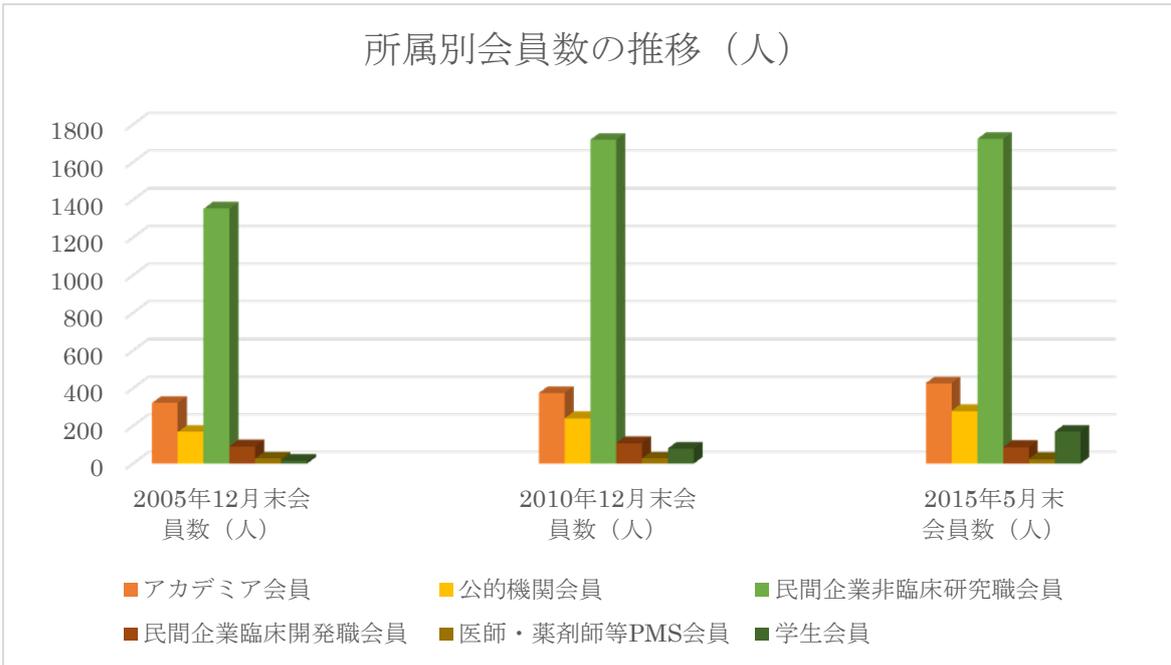


図 5 所属別分類会員数（人）の推移

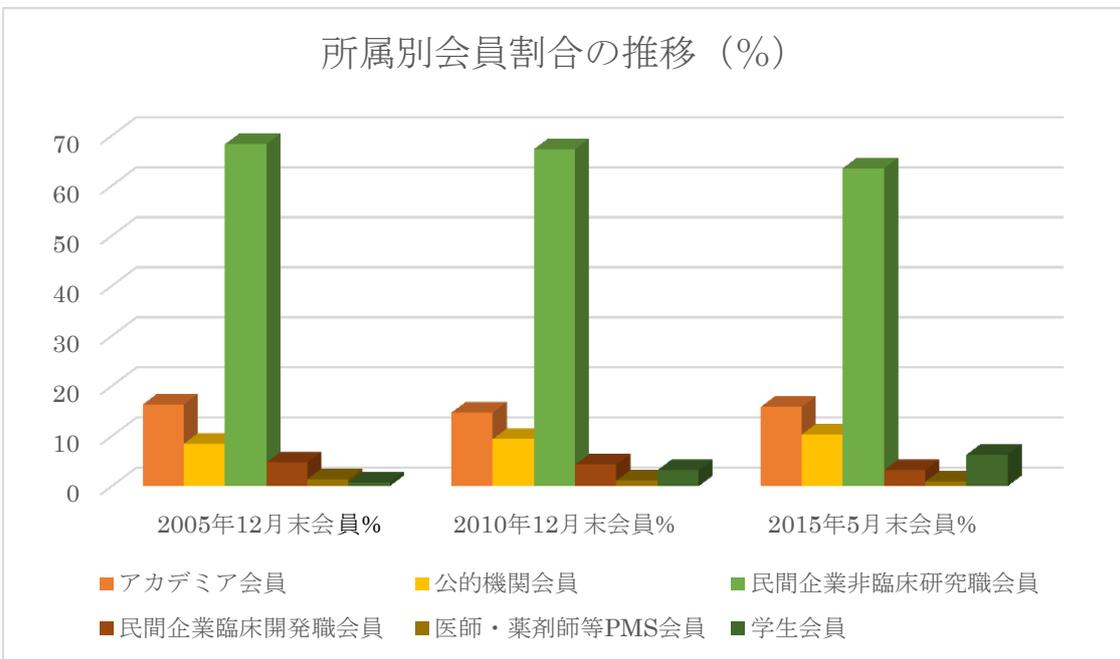


図 6 所属別分類会員割合（%）の推移

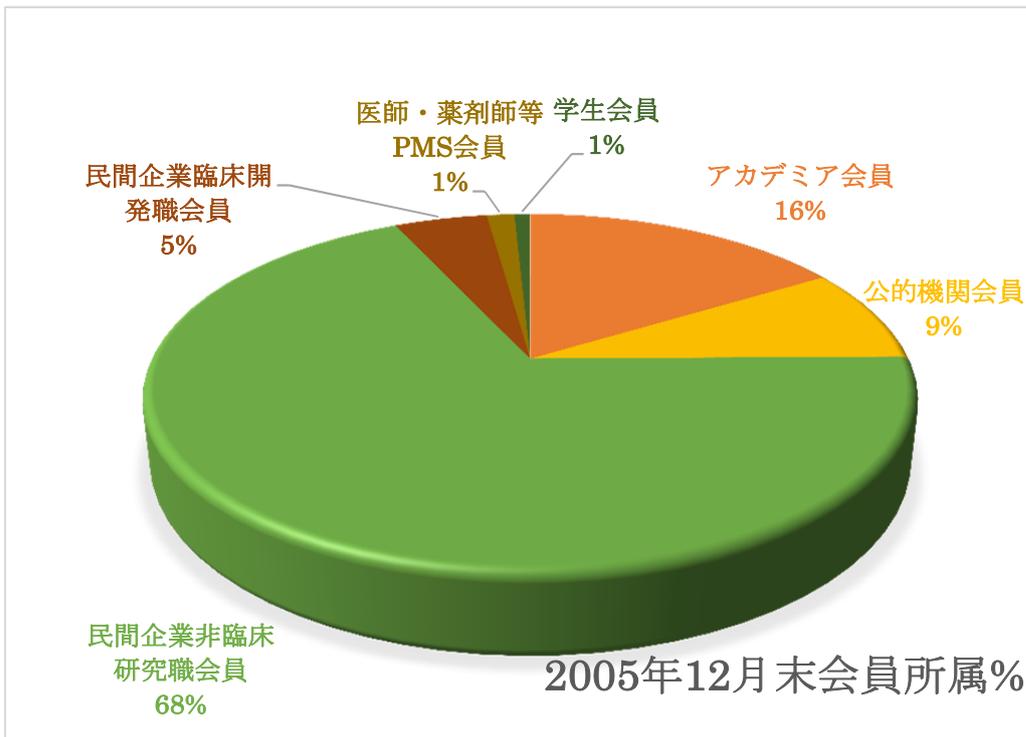


図 7 2005 年 12 月会員所属割合

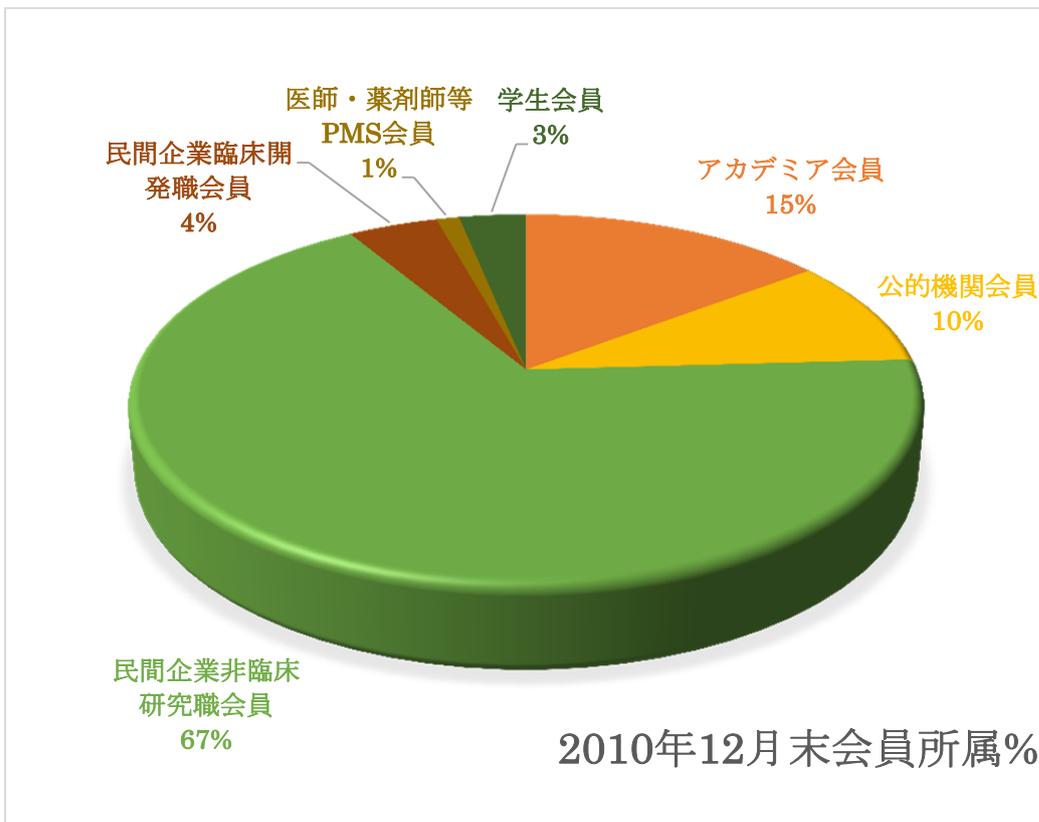


図 8 2010 年 12 月会員所属割合

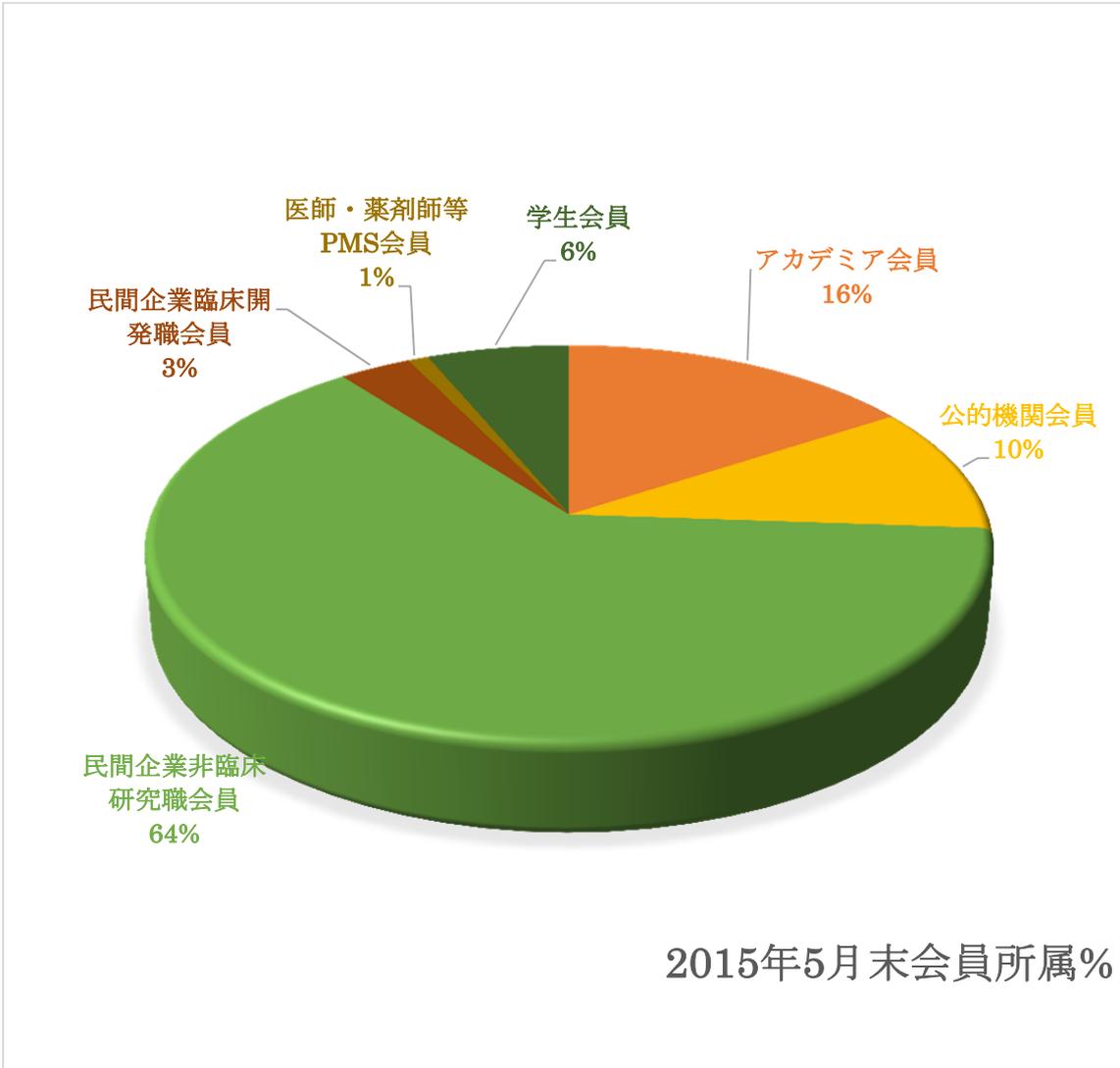


図9 2015年度5月会員所属割合

以上